

平成30年度指定管理者制度活用事業 評価シート(こども文化センター)

1. 基本事項

施設名称	川崎市第2グループ(大師・藤崎・殿町)	評価対象年度	平成30年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	H29		H30		H29		H30	
	1 大師こども文化センター ①年間延べ利用者数	37,101人	39,580人	②年間延べ利用団体数	239団体	254団体		
2 大師小学校わくわくプラザ ①登録者数	240人	254人	②年間延べ利用者数	14,773人	16,632人			
3 四谷小学校わくわくプラザ ①登録者数	155人	153人	②年間延べ利用者数	12,111人	12,477人			
1 藤崎こども文化センター ①年間延べ利用者数	23,575人	20,482人	②年間延べ利用団体数	224団体	175団体			
2 藤崎小学校わくわくプラザ ①登録者数	274人	293人	②年間延べ利用者数	19,662人	21,470人			
3 川中島小学校わくわくプラザ ①登録者数	302人	281人	②年間延べ利用者数	18,118人	19,925人			
1 殿町こども文化センター ①年間延べ利用者数	33,069人	27,982人	②年間延べ利用団体数	316団体	288団体			
2 殿町小学校わくわくプラザ ①登録者数	214人	181人	②年間延べ利用者数	11,964人	12,888人			
3 東門前小学校わくわくプラザ ①登録者数	577人	573人	②年間延べ利用者数	37,112人	34,043人			
収支実績	単位:円 1 収入 指定管理料 154,444,784 2 支出 人件費 127,611,851 管理費 10,247,059 事務経費 8,520,095 その他経費 9,103,743 合計 155,482,748 3 差引 -1,037,964							
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。							

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	4	8
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
(評価の理由) ・仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・殿町こども文化センターでは、乳幼児対象事業として「きらきら☆すまいる」を実施、ベタベタあそび、パネルシアタ、ベビーマッサージなどの行事を行うほか、地域子育て支援センターの定期的な行事と日程を合わせる工夫を行い、乳幼児を対象としたイベントを多数行ったことで乳幼児親子同士の交流促進に繋がった。 ・大師こども文化センターでは、乳幼児対象事業として、身体測定会を中心としたひよこサロンを行い、クリスマスイベント、ベビーマッサージなどの行事を併せて行う工夫をするなど、乳幼児親子の利用促進を図った。 ・藤崎こども文化センターでは、「すまいるきつぷらランチづくり&あそび〜」を実施、ランチ作りとあそびをととして、乳幼児と中高生がふれあう行事を行い、異年齢交流を行った。 こうした取組の結果、乳幼児の利用者数が昨年度と比較し、約1,800人増加した。					
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	3	6
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	4	4
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	4	8
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4
	運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	4	4	
(評価の理由) ・利用者ニーズについて、館に設置した意見箱の活用により、意見を集め、運営改善に努める他、子ども運営会議や、アンケート等により、利用者の意見を吸い上げるための仕組みが整っている。 ・特別な配慮を要する児童への対応については、巡回相談員から対応策の助言を受けたほか、障害児対応の館内研修を開催し、対象児童のノートを作成し職員全員が対応できる体制とし、児童が落ち着いて過ごせるようにできる等処遇向上が図られた。 ・学校及び行政機関との連携については、大師こども文化センターでは、地域のみまもり情報共有のために大師公園管理事務所と連携し、地域連携・地域交流を行うことができた。また、殿町こども文化センターでは、高齢世帯の多い地域での交流を図るため近隣に新設されたグループホーム2箇所と新たに連携し、ハロウィンパーティー事業の実施を行い多世代交流を行った。また、藤崎こども文化センターでは幼児から小学生までの切れ目のない支援・情報共有を行うため、新たにかんの人町保育園と連携し、「保育園を訪ねらやおう!!」事業を実施、異年齢交流を行った。 ・施設・事業の広報については、乳幼児親子向けの乳幼児だより定期的に発行し、カラー印刷し、近隣の保育園に配布する等の工夫を行い、対象年齢を捉えた効果的な広報を行っている。また、各行事ごとに概要を記載したカード型のチラシを作成し、大師公園の利用者等に直接配布する等広報の工夫を積極的に行った。 ・運営協議会の実施について、運営協議会が設置され、事業計画どおりに開催されている。 ・殿町小学校わくわくプラザ、東門前小学校わくわくプラザでは、保護者懇談会にて、学校の給食の有無がわからずお弁当忘れ等が多い等の意見があがり、館内で防止策を話し合い、わくわくプラザの参加カードにお弁当が必要なことが分かるようマークする等の工夫を行った。					

組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な人員配置については、子ども文化センター及びわくわくプラザにおいて、仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。 職員の研修体制については、館内会議やスタッフ会議等において、研修を受講した職員がその知識を共有しているほか、研修資料やレポートをファイル等に一元化して管理し、職員が閲覧できる等、共有化の仕組み作りができています。さらに、藤崎子ども文化センターでは、市の研修内容を基に中高生の居場所づくり研修を行い、中学生・高校生への声のかけ方などを学び職員の資質の向上が図られた。 個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はありません。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	4	4
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	3	3
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	3	3
		災害発生時に備えた対応が図られているか。			
		災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の保守管理については、子ども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、補修が必要な場合は適宜、工事等実施している。特に東門前わくわくプラザでは、遊具棚を作成し、遊具がみやすく取り出しやすい高さになり、児童の環境改善に取り組んでいる。 利用者の安全確保については、マニュアル等が整備されているとともに、事故防止・感染症予防が図られている。 防犯対策及び災害時の対応として、法人作成の「不審者対応マニュアル」や、館ごとに作成している「災害時対応マニュアル」に基づき、災害備蓄品の常備や消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。 					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
		支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 金銭管理・会計手続については、適正に行われている。 受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。 					

4. 総合評価

評価点合計	70	評価ランク	B
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

市内20グループの子ども文化センター及びわくわくプラザの指定管理を行うスケールメリットを活かし、効率的・効果的な事業運営を行っている他、全館・全区合同事業の実施、経験や役割に応じた計画的な研修実施によって職員の資質向上を図り、また研修内容・事故状況等の情報を全館で共有するなどにより、安定的で良質なサービス提供を行っている。

グループ全体として、老人いこいの家との連携においては、将棋教室、絵手紙教室、マンカラ大会、卓球交流会、子ども文化センターまつりの共催など多数の事業や合同の避難訓練などを行うことで連携の強化に努め、地域包括ケアシステムの構築に繋がる活動を行っている。特に大師子ども文化センターでは、公園管理事務所、老人いこいの家及び商店街などの積極的な連携によって、様々な事業を実施し乳幼児や成人などの利用者増加に繋げており、今後も連携を継続し地域の見守り・情報共有などに効果が期待できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、学校、行政、地域の各団体が共に連携しながら地域づくりを進めることで、職員と子どもの顔の見える関係を築き、小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。また、より一層利用者の安全を確保するために、他施設や類似施設等でのヒヤリハット事例等の検討を各施設単位で行い、対応策を立案し職員間で共有する等、さらなる安全確保の取組を行うことが望ましい。